WKC フォーラム

World Health Organization
Centre for Health Development

1.17は忘れない
伝える 備える 活かす
阪神淡路20年

災害にレジリエントな高齢化社会とコミュニティーの構築にむけて

日 時： 2015年2月20日（金）午後2時～4時
場 所： 兵庫県看護協会会館　研修室 6
（神戸市中央区下山手通5-6-24　兵庫県看護協会会館 4階）

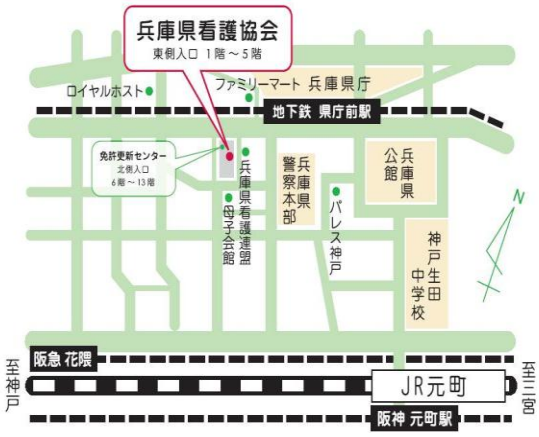
1995年の阪神淡路大震災から20年が経ちました。この20年の間、防災、災害復興支援に関して、様々な活動が行われてきました。

日本は世界に先駆けて超高齢化社会を迎えています。高齢者は阪神淡路大震災、そして東日本大震災においても、多大な影響を受けました。

この超高齢化社会で、災害時にどのように緊急対応を行い、被災者をどのように支援するのかを考えることは緊急の課題です。現在も、健康・社会・心理そして身体的な問題に多くの課題が残されています。

過去の災害経験から、将来起こりうる災害に対して、被災者を支援できるレジリエントな社会（回復力のある社会）とコミュニティーをどのように築くことができるかについて、医療・看護・福祉行政の専門家が多角的に討議を展開します。

会場（兵庫県看護協会会館） 周辺図



JR「元町」駅西口より北へ徒歩8分
神戸市営地下鉄「県庁前」駅4番出口より徒歩2分

プログラム

1. 講　演

（登壇順・敬称略）

「東日本大震災の高齢者健康問題：NCDsの疫学的所見」	京都大学大学院医学研究科 安寧の都市ユニット 特定准教授 三谷　智子
「高齢化社会と災害：グローバルな観点からの報告」	WHO神戸センター コンサルタント 加古　まゆみ
「阪神淡路大震災後の高齢者の生活問題、見守り活動を通じての学びをどう生かすか」	神戸市垂水区役所 保護課長 岡本　和久
「まちの保健室活動を通して被災高齢者の健康を守る」	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 WHO災害と健康危機管理に関する看護協力センター所長 山本　あい子
「東日本大震災後復興期における高齢者の健康問題とその対策」	相馬中央病院 内科診療科長 越智　小枝







2. 討　議　（オープン・ディスカッション）

主催: 兵庫県立大学地域ケア開発研究所・WHO神戸センター（WKC）・WHO神戸センター協力委員会

お問い合わせ： WHO神戸センター（WKC）
〒651-0073　神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1　I.H.D. センタービル　9階
電話: (078)230-3100　ファクス: (078)230-3178　電子メール: wkc@who.int

講演者紹介

「東日本大震災の高齢者健康問題：NCDsの疫学的所見」
三谷　智子　（京都大学大学院医学研究科 安寧の都市ユニット 特定准教授）

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 健康増進・行動学分野卒業。社会健康医学博士。災害人道医療支援会会員。自身の1995年の被災経験から災害医療を志し、京都大学防災研究所での博士課程履修時に、医療従事者の抱えるストレスを対象に研究活動を行なう。医療従事者が抱える精神課題についての論文を多数執筆。2006年京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学助教。2010年より現職。「今回のフォーラムでは、東日本大震災後の高齢者が抱える健康問題について、生活習慣病や被災地での疫学的観点からお話しします。」

「高齢化社会と災害：グローバルな観点からの報告」
加古　まゆみ（WHO神戸センター コンサルタント）

看護師、哲学博士（看護学）。現在、WHO神戸センター コンサルタント（災害緊急マネージメント）。1994年に神戸市立看護短期大学を卒業後、西神戸医療センター勤務。その後、渡豪し看護学学士、修士を取得。帰国後、神戸市看護大学での教鞭の傍ら、HAT神戸で被災高齢者のための地域ボランティアに学生、同僚とともに関わる。2008年博士取得後、フリンダース大学 Disaster Research Centre (現Torrens Resilience Institute) で災害看護、医療に関する教育、研究に携わる。「高齢化社会で生じる課題は、世界レベルでの取り組みが必要になっています。災害は社会すべてに影響を及ぼし、より脆弱な社会構築では、その回復や復興により多くの時間を要します。HAT神戸でのボランティアの経験を元に、日本から、またグローバルな観点からの高齢者の支援のあり方について、話題提供・考察をします。」

「阪神淡路大震災後の高齢者の生活問題、見守り活動を通じての学びをどう生かすか」
岡本　和久　（神戸市垂水区役所 保護課長）

大阪府立大学社会福祉学部卒業。社会福祉士。1991年神戸市入庁後、神戸市中央福祉事務所に配属。1996年4月、神戸市保健福祉局地域福祉課でボランティアセンターの立ち上げや、仮設住宅、復興住宅での地域見守り活動等に従事。2001年厚生労働省老健局計画課に出向し在宅福祉を担当後、神戸市保健福祉局で在宅福祉や介護予防推進等の業務を担当。その後、神戸市灘区保護課係長、神戸市こども家庭センターにて児童虐待担当係長を経て2012年より現職。「これまでの災害後の支援活動を通して、災害からの復興は人の心も含めたものであり、特に被災者には高齢者が多いことから、脆弱になりがちなコミュニティーを平時より支え続けることの必要性を痛感しています。被災者の生活再建を見守る中で気付いたことを交えながら、お伝えしたいと思います。」

「まちの保健室活動を通して被災高齢者の健康を守る」
山本　あい子（兵庫県立大学教授 同大学地域ケア開発研究所「WHO災害と健康危機管理に関する看護協力センター」所長）

聖路加看護大学衛生看護学部看護学科卒業。テキサス大学オースチン校看護学研究科博士後期課程修了。看護学博士。聖路加看護大学講師、JICAパキスタン看護教育プロジェクト看護教育専門家等を経て2008年より現職。阪神淡路大震災後、1998年の日本災害看護学会設立に参画し、2008年の世界災害看護学会の設立にも関与、現在両学会理事長。2005年より同大学看護学研究科において、災害看護専攻領域の教育を世界に先駆けて開始。「まちの保健室活動を通して被災高齢者の健康を守る、また健康に関わる専門職教育の側面からの情報・課題提供を予定しています。」

「東日本大震災後復興期における高齢者の健康問題とその対策」
越智　小枝　（相馬中央病院 内科診療科長）

東京医科歯科大学医学部医学科卒業。2003年同大学膠原病・リウマチ内科入局。2011-2012年、インペリアルカレッジ・ロンドン公衆衛生大学院にて公衆衛生修士取得。インペリアルカレッジ・ロンドンリサーチフェロー、WHO、PHEインターンを経て2013年11月より現職。「災害からの復興の目指すものは、インフラや経済の復興ではなく人の復興であり、そのためには被災地における長期的な健康被害を阻止することが大切です。超高齢化社会を迎えた日本においては、特に高齢者の健康問題を包括的に把握し、対応する必要があります。今回のフォーラムでは、地震・津波・原発事故の複合災害を受けた福島県相馬市での経験をもとに、現在の高齢者の健康問題について報告します。」

討議（オープン・ディスカッション）　参加者からの質問や意見を募り、公開討議を行います。

＊　＊　＊　＊　＊

《 参加申し込み方法 》　申込締切：2015年2月17日(火) 必着

下記事項をご記入の上、電子メール、ファクス、または郵送で お申し込みください。（先着 70名：参加費無料　言語：日本語）

【申込先】WHO神戸センター WKCフォーラム事務局
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1　I.H.D.センタービル9階
Tel: 078-230-3100　Fax: 078-230-3178　Email: wkc@who.int

WKCフォーラム 参加申込書

「災害にレジリエントな高齢化社会とコミュニティーの構築にむけて」

2015 年 2 月 20 日（金）　14:00～16:00

ご氏名 （ふりがな）　（　）	TEL
所属団体・役職名	FAX
ご住所	E-mail

※ お申し込み後、参加証等は発行いたしませんので、当日は直接会場までお越しください。 日程の変更、定員超過等でご参加いただけない場合に限り事務局より連絡いたします。
※ 複数での参加ご希望の場合は、必要項目をリストにしてお申し込みいただいても結構です。
※ 本申込書による個人情報は、WHO神戸センター及びWHO神戸センター協力委員会のご案内等の目的で使用させていただく場合があります。